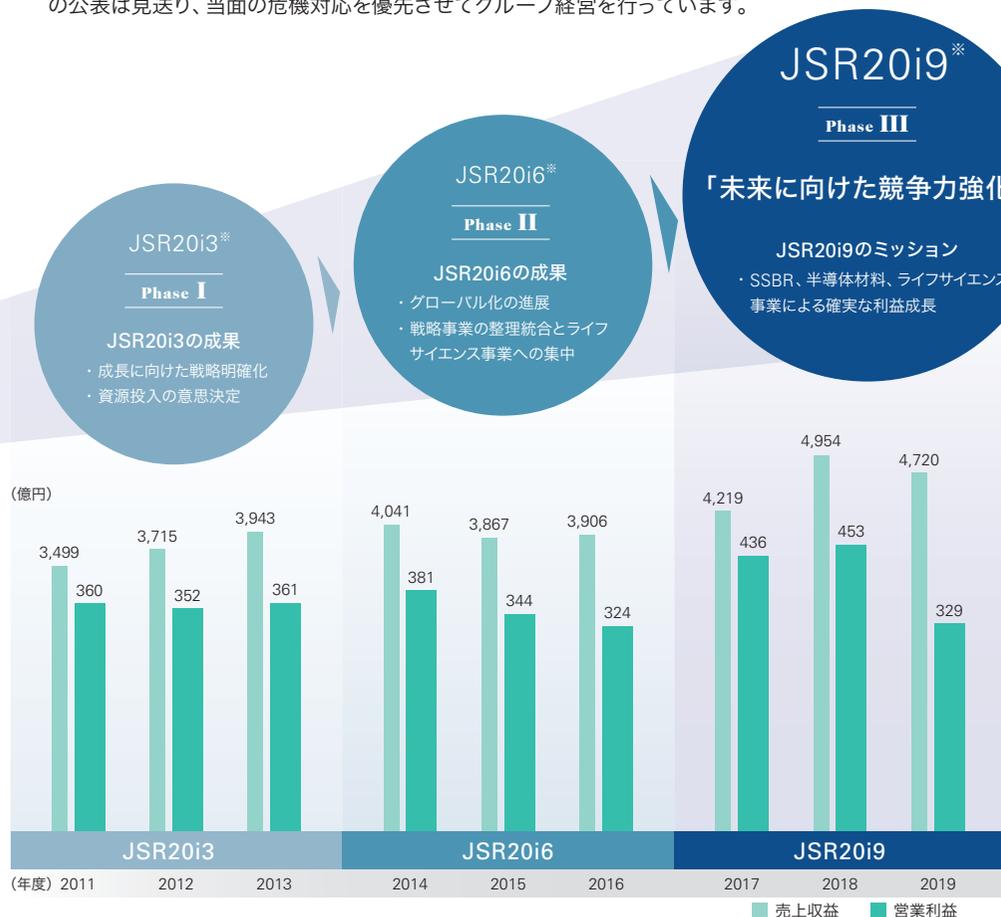


# 中期経営計画とサステナビリティ・チャレンジ

## 中計進捗と振り返り

2018年3月期(2017年度)から3カ年にわたり、“未来に向けた競争力強化”期間と位置づけ中期経営計画「JSR20i9<sup>※</sup>」に取り組んできた結果、半導体材料事業においては最先端フォトレジスト等が販売拡大し、ライフサイエンス事業は第3の柱へ成長、エラストマー事業では戦略製品である溶液重合スチレン・ブタジエンゴム(SSBR)が市場成長率を上回って成長しました。2020年3月期(2019年度)に「JSR20i9」が終了したことに伴い、“将来にわたる持続的成長により、ステークホルダーへの責任を果たしていく”という2050年に向けた長期ビジョン達成のための新中期経営計画の策定に取り組んできましたが、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や石油化学市場が低迷している状況を鑑み、2020年度は新中期経営計画の公表は見送り、当面の危機対応を優先させてグループ経営を行っています。

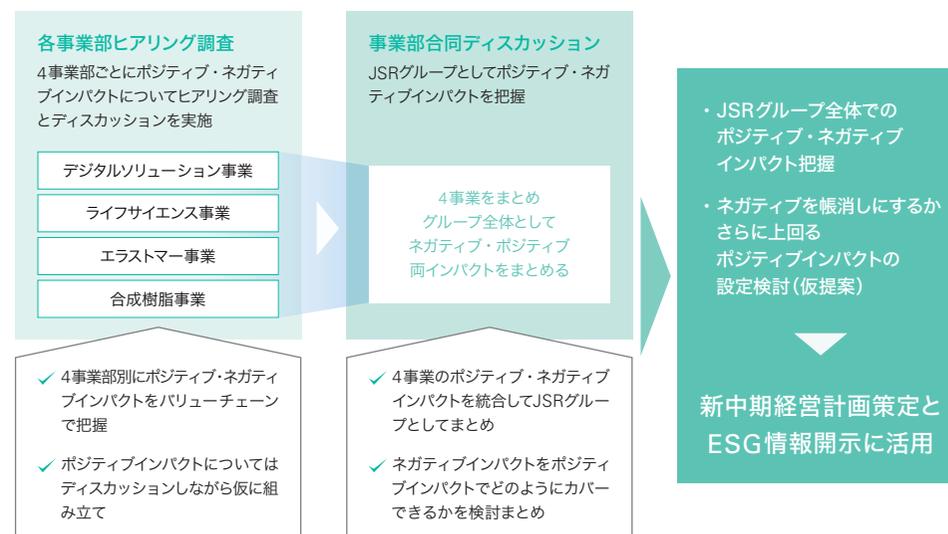


## サステナビリティ・チャレンジ

新しい中期経営計画の策定にあたっては、マテリアリティ(重要課題)の見直しを検討しています。マテリアリティの見直しに際しては、2019年に実施した有識者との対話での指摘を踏まえ、「事業活動」「経営基盤」という2つの切り口に分けて再整理を進めており、「事業活動」に関してはポジティブ・ネガティブインパクトの抽出作業「JSRサステナビリティ・チャレンジ」を実施しました。

「JSRサステナビリティ・チャレンジ」では、4事業部ごとにポジティブ・ネガティブインパクトを把握するヒアリング調査をまず実施後、この調査で把握されたポジティブ・ネガティブインパクトを統合した中間レポートを作成。これをもとに事業部合同ワークショップを行いました。この事業部合同ワークショップでは、将来あるべき姿を思い描きながら、どのネガティブインパクトの削減、およびどのポジティブインパクトへの注力に取り組むべきかをディスカッションしました。なお、ポジティブ・ネガティブインパクトともに、可能な限り数値試算にも取り組んでいます。また、「経営基盤」についても、同様に実施すべく準備を進めています。

### 「JSRサステナビリティ・チャレンジ」実施プロセス



※「JSR20i3」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR20i6」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR20i9」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実行すべく、innovationを強調して「i」を使用して表記しています。